

## あ と が き

『聖泉論叢』20号を発刊しましたので、お届け致します。

投稿者の方々及び紀要委員会の皆様は、『聖泉論叢』の刊行のためにご協力をいただき心からお礼申し上げます。

また、『聖泉論叢』は19号から本格的に外部査読者による審査も受け、論文の採否を決めており、学内外の査読者の方々のご協力にも感謝申し上げます。

『聖泉論叢』が20歳を迎えるこの号の企画・編集・運営にあたって、多くのことを経験し、学び、また多くのことを考えさせられました。20歳の節目は、人間でいえば成人を迎え、社会に責任を果たす覚悟と努力が求められます。本学の研究論文集過去19年間にわたり、社会、地域、学生などにとって、よりよい未来を切り開いていくことの一助となり、認められてきていることと、誇りに思います。一方、今後は人間学部教員の専門性をもっと反映し、また学術論文集としての性格をさらに高める必要があると思います。こうして新しい気持ちでスタートをして前進し、30歳の成熟さらに40歳の不惑の年に向けて取り組んでいきたいと存じます。そのために今後も、紀要の在り方について幅広く検討していきたいと思います。

本号の掲載論文数は多いとはいえませんが、いずれも重みがあり、学術的価値が高く、聖泉大学人間学部教員の研究レベルを反映されており、喜ばしいことです。

このように『聖泉論叢』を読むことにより学生一人一人が真に「大いに学び」且つ「大いに成長する」ことができるため、本紀要は一人一人の教員が真の教育及び真の研究に真摯に取り組んでいく一助となれば幸いです。

最後に、皆様の今後の研究・教育活動の益々のご発展をお祈りするとともに、本紀要への一層のご支援を賜りたく宜しく申し上げます。

2013年3月吉日

聖泉大学人間学部 紀要委員長 李 艶